

MGI016-09

会場: 201B

時間: 5月27日15:40-15:50

気候変化に関する大型プロジェクト間の連携強化

Cooperation among large-scale projects on climate change

河宮 未知生^{1*}

Michio Kawamiya^{1*}

¹ (独) 海洋研究開発機構

¹JAMSTEC

2007年に発行された「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」第4次報告書(AR4)は、気候変化予測に転換期をもたらすものといってよい。AR4に掲載されたシミュレーション予測結果では、21世紀末に二酸化炭素濃度が現在の2.5倍になる将来シナリオで3度弱の、他のシナリオも含めると1.1-6.4度の昇温が予測されている。また観測事実とシミュレーション結果の広範な解析に基づき、20世紀後半の地球規模での温暖化が人間活動に起因するものであることがほぼ断言されている。AR4の発行が契機となり、予測を支える科学の役割が、気候変化の根拠明示から温暖化の抑制・適応策立案へ資する知見獲得へと移行していくと見る向きが多い。AR4発行と前後して、地球環境研究に関する大型プロジェクトがいくつか国内で発足している。代表的なものが、

-文部科学省による「21世紀気候変動予測革新プログラム(2007年発足)」

-環境省地球環境研究総合推進費によるS-5「地球温暖化に係る政策支援と普及啓発のための気候変動シナリオに関する総合的研究(2007年発足)」

-同S-4「温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究(2005年発足)」

-文部科学省による「データ統合・解析システム(2006年発足)」

である。革新プロは気候モデル開発、S-5、S-4は気候変化の影響評価に重点を置いたプロジェクトであり、いずれも上述のような趨勢を意識した構造になっている。またDIASは地球環境に関わる観測・予測データの統合・解析を通じた情報発信を目指している。上で挙げたプロジェクト間の仲立ちとなる仕組みとして「気候シナリオ利用タスクグループ」などの活動が発足している。温暖化予測シミュレーションに基づくデータは厳密には「地球環境観測データ」ではないが、地球規模の観測データを利用して研究を行ってきた研究者の間で、今後利用が増えると考えられる。講演ではこれらのプロジェクトや活動の概要を述べ、転換期を迎えた気候変化予測の推進のためそれらが連携を強化しつつある状況を報告する。

キーワード:地球温暖化,影響評価,予測データ,連携

Keywords: global warming, impact assessment, projection data, cooperation